

# J.P.C



# JPCサマーキャンプ

## Body Vibration Action Ichi —Vol.9—

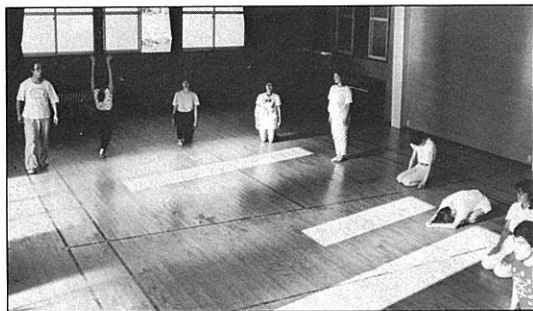
第9回JPCサマーキャンプは、7月29日(土)～8月1日(火)の4日間、例年どおり河口湖畔流石で有賀誠門先生をチーフインストラクターとして開催された。今年は1泊少ない4日間だったためゲストはなかったが、サブインストラクターに、神奈川フィルハーモニーオーケストラの平尾信幸氏、フリープレイヤーの伊達弦氏、同じくフリープレイヤーの田辺由紀さんという豪華な顔ぶれ。さらに今年は紅一点ならぬ墨一点(?)。政界のみならず音楽の世界にまで波及してきたこの現象は、ウーマンパワー(マドンナ現象というべきか?)の象徴か、打楽器女性増加の現れか、はたまた有賀先生のファンの集りか?—



### ●第1日

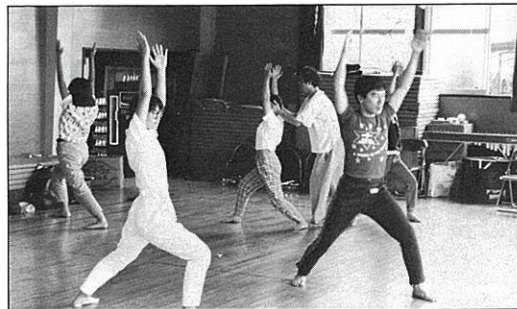
静寂の中から始まった初日(今年は全体的に本当に静かだった)。体をリラックスさせることから始める。まず、仰向けに寝て脱力。日中で良くやる溜息まじりのあのだらしのない声を出しながら、つまり息を思い切り吐きながら脱力すると、腰が床にくっつきやすくなる。たいていの人は床につかないが、つかなかったら膝を立てて腰と床がくっつくようにする。さらにそのまま膝をかかえ込むようにして腰を左右に動かしたり、再び膝を立てて腰を上下に動かしたりしてもっと体をリラックスさせる。

次は脱力から緊張への動作の練習。①正座の状態からうずくまり、先程のように息を吐いて脱力する(写真下)。②ひもで引っ張られる感覚で腰を中心軸にして上半身をゆっくり起こす。ひもは首の付け根あたりについていると思うと案外楽。上半身を起こす時に力が入らないように注意すること。腕や頭がブラブラしていて体よりも後からついてくれば力が抜け



ている証拠。③②と同じ感覚で両膝で立ち上がり、片膝を立ててスッと一気に立つ。立った時に、足の裏は床にしっかりとついていても、それより上の体は脱力したままであることを忘れずに。スッと立った状態で腕の重さを肩でしっかり感じることができると、大体力が抜けている。感覚が良くつかめなかったら少し膝を曲げてみるとわかり易いので、それから膝を伸ばしても良い。④掛け声と共に両手足を伸ばして体を張り切る(写真右)。掛け声は、自分自身に入れる気合いだ。前に出した足を交互にしたり自分右で方向転換をしたりして腰が支点になっているのがわかれば合格かな? ①から④の動作を次第に早くしながら何度も繰り返していくうちに、瞬発力が必要な時には体の力を抜くことも必要なことがわかってくる。そうするとドラムセットやティンパニーやシンバルの演奏が今まで以上に滑らかになったり、パワフルになったりするのが体を通して感じられる筈。

夕食後は、アフタービートの練習が中心。これは毎年やることだけれど、皆なかなか上手く出来ない。始めに、モモをしっかりと上げて足踏みをする。テンポは♩=120がノリやすい。足踏みをしばらく続けたらモモの上空に両掌を置く。掌



を下げずにモモを高く上げて掌に当たるようにする。(図1)それで出来上がったリズムは、足踏みが「表」で掌が「裏」ということになる。これだけで軽快なマーチの出来上り/注意することには上半身の脱力。少し難しそうだが上半身が楽になると、リズムもはっきりしてくる。

夜のレッスンのしめくくりは簡単なリズム遊び。八分音符と八分休符を組み合わせた短いパターンを体のあちこちを叩いたり歩き回ったりして演奏(?)する。最後に床に寝ころんで、歌でいうならハミングのような感じでリズムに合わせて体を微妙に動かしながらdim.。電気を消して第1日目終了。

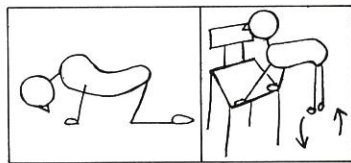


### ●第2日

午前中は昨日の続きで仰向けに寝てリラックスすることから始まる。落ち着いたらこれも恒例、「ワンッ!」の練習。四つ這いになってお腹の力と首の力を抜き、思い切りワン!という。<図1>前日のうずくまった状態から体を張り切るパターンの応用。気を付けることは、脱力の際に完全にお腹と首が下がって獣のように肩甲骨が盛り上がっていること(図2)と、ワン!と言った時に自然に上を向いた首が、言い終わった瞬間にガクンと落ちることだ。

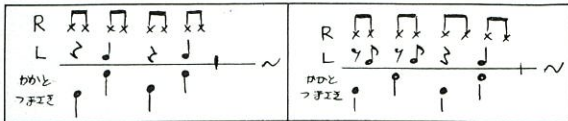
次は昨夜のアフタービートの応用。ワルツのステップを踏みながら手拍子で後打ちを入れる。序々にテンポを上げて速くしたり、八分音符でステップを入れたりしてバリエーションを作る。ステップを踏む時に腰からリードしないと体があとに残ってしまつて見た目が不格好だし速いテンポにもついて行けないので注意。床の上でジダンダ踏んで大声でワアッと呼びまくって午前中は終了。

午後には、まず、椅子を持って来て腰かけたり立ち上がったりの練



<図2>

<図3>



〈譜例1〉

〈譜例2〉

習。膝をバネのように柔軟にしながらか次第にaccel.。そのままジャンプ！椅子につかまって両足で床を蹴る(図3)。体がマレットで、床をヘッドに例えてみると、どの位高い位置まで跳ね上げればドクドクしないのかわかる。

へトへトに疲れたところで漸くスネアを取り出して、ボール遊びのように宙に放り投げる。バツと放してボンと両手ではさんで止める。慣れてきたら輪になって順番にやっていくのだけれどこれが難しそうで、リズムに乗って出来るようになるまでだいぶ時間がかかった。次にスティックを出し根元から先端まで親指と人指し指の2本で移動させたり床をたたいたりして遊ぶ。スタンドを出して、ヤツと音出し！ダダダダダダダダ……と思いつき叩いてところどころにアクセントを入れる…。アクセントを入れると、どうしても皆走ってしまうので、解決策を出す。椅子に座り、拍子に合わせて両足の踵とつま先でビートを出す。(例えばつま先が1で踵が2)右手で8分音符、左手でアフタービートを叩く(譜例1)。それができたらもう少し複雑なリズムにしてみる(譜例2)が、どうしても早くなってしまい4小節目に16分音符のBreakを入れてみるのだけれど、そこでまた早くなってしまふ。

結局、足のリズムに合わせて16分音符を練習するという基本に立ち返り、午後のレッスンは終了。実はこのアクセントの練習がうまく出来れば、サマーキャンプで昨年大人気かつ大好評だった「パーカッション・シークエンス」への第一歩になる筈だったのに、大きな回り道になってしまったために、一時はこの曲は取り止めになる話になったのだが、皆があまりにも懇願する(?)ので厳しいレッスン覚悟で先生の許可が降りという裏話付き。

ハードな練習が終り、夕食の後は少し遅ればせの自己紹介の時間。友達を作りたい、アンサンブルしたい、有賀先生を知りたい、去年楽しかったからなどという動機他に、自分が他の人に打楽器を教える時に無責任には教えられないのでという人もいた。

自己紹介の後はいきなりアンサンブルの楽譜を渡され皆びっくり。早速パートの割り振りをする人、口三味線とりかかると、体育館のあちこちに小さな人の輪ができる。

●第3日

朝からアンサンブルの練習に入る。前年までとちがって全

く練習時間が無いままにレッスンが始まる。有賀先生の怒鳴り声、平尾先生の皆を盛り上げる大声、田辺先生の励ましながらも妥協を許さない声、伊達先生の優しい声、そんな色んな声がスパイスになって、ごった煮のようにひどい(本当に最初はひどかった)曲がだんだん形を成していく。一日しかない練習日に何曲もこなさなければならない皆の表情には焦りの色すら見えた。けれど、やはり夜のパーベキューパーティーも楽しみにしていただけあって、サンバで踊って大いに盛り上がり、緊張の糸も少しは柔い様子。雨降りだったけれど体育館の中でのパーベキューもオツなもの(?)。

●第4日

いよいよ最終日。例年の如く最終日が最もあわただしい。9時から12時までの3時間のうちに、リハーサル、本番、楽器解体、積み込みまでやらなくてはならない。皆はアンサンブルのことで、スタッフは時間のことで神経が朝からビリビリしている。けれど、この凝縮された時間の中で、一つ、また一つと曲がこなされ、最後の演奏が終わった時の気持ち良さは格別だ。

時間が無くなって体育館で伸びたおそばを食べ、どしゃ降りの中をズブ濡れになって楽器積み込みをした皆の心の中は晴れ渡っていたのではないだろうか。(by M. Ishii)

——今回演奏した曲——

- パーカッション・シークエンス
- アンティフォン
- スイート・フォー・バックカッション
- アンコール・イン・ジャズ
- アフリカン・ウェルカム・ピース



# 安倍圭子とクロマータ

～マリンバと打楽器の出会い～

マリンバ：安倍圭子

打楽器：クロマータ(スウェーデン国立打楽器合奏団)



- 11月7日(火) 札幌 サンプラザホール 6:30開演
- 11月13日(月) 東京 ゆうほうと簡易保険ホール 7:00開演
- 11月15日(水) 浜松 勤労会館 6:30開演
- 11月16日(木) 大阪 府立労働センター 6:30開演

入場料 東京4000円、他会場3000円

- 曲目「輪彩」 三善 晃作曲
- 「ドラムス」 サンドストローム作曲
- 「カーラ」 西村 朗作曲(委嘱日本初演)
- 「マリンバスピリチュアル」三木 稔作曲 他

お問い合わせ 安倍圭子マリンバ・オフィス ☎03-305-8329  
 ジャパン・パーカッション・センター ☎03-845-3041

安倍圭子が、世界各国の音楽祭へ招かれて開いている数多くのコンサートの中でも特に世界的に高い評価を得ているものを日本でも再現し、さらに新しい可能性を追及するために、各フェスティバルで共演した世界のトップアーティストを迎えて行なうコンサートです。シガン・パーカッショングループ、オランダ・サークルアンサンブルに次いで、今年スウェーデンの国立打楽器合奏団クロマータとの共演で全国ツアーを計画しております。彼らは安倍圭子が近年取り組んでいるソロマリンバと打楽器合奏の組み合わせによるサウンドを理想的に創造し得る共演相手として大変期待されます。

# Tokyo Drum City 情報

## サル・ソフィア ドラムクリニック

8月6日 プレイス24

ドラム教則本「ドラップス」、「ジ・オムニオブドラムテクニック」の著者、サル・ソフィアによるドラムクリニックが開かれた。

当日は、折しも台風接近の悪天候にもかかわらず70人程度の熱心な人達が参加した。今回サル・ソフィアは、このクリニックの為だけに来日。それだけかなり高度な内容のクリニックとなった。彼の教則本の中から、16NOTEのリズムパターンを中心に進められた。これはかなり4ウェイコーディネーション的な要素が強く実践的なフレーズというよりも、メカニカルテクニック色が強い。特にハイハットを必ずフレーズの中に組み入れて一つのリズムパターンを作っていくので、ドラムセットをフルに生かしていく上でのリハビリ的な練習方法として考えている様な感じを受けた。質問コーナー



## ジミー竹内・ドラムクリニック

8月20日 コマキB 1

8月20日、先日のサル・ソフィアのドラムクリニックに引き続き今回は、ジャズピアニスト世良譲トリオで活躍、我が国が誇るジャズドラマーの大御所、ジミー竹内氏のドラムクリニックが開かれた。先のサル・ソフィアのクリニックとは対象的に一つ打ち、二つ打ち、パラディドル等をベースに基本を体得するには絶好のクリニックになった。長い間常に第一線で活躍している同氏のポリシーは、「基本、底辺の大切さ」である。基本がしっかりしていれば、どんな音楽に進もうか強いということである。クリニックは前半、練習台で基本奏法をみっちり体得する内容になった。一つ打ち、二つ打ち、アップダウン奏法、アクセント移動、パラディドル等ベーシックパターンのオンパレード。後半は、ドラムセットを中心にオープンロール、プレスロール、アフロキューバン、途中に

ドラム・シティ・ドラムスクール

「浅草ドラム道場」

1989年11月開講

—生徒募集—

講師：市川宇一郎、中村秀樹

※詳細はチラシをご覧ください



を設けた後、次はルーディメントを使っての実践的なファンクリズムのフレーズを中心にクリニックが進められていった。ここで一番肝心なのはシンコーペーションの位置を少しずつ変えていく事によって、いわゆるノリは全部変わっていくがビートそのものは変わらない。シンコーペーションをずらしていくことでリズムパターン自体は同じだがグルーブが変化していくということ。そしてソロの後でサル・ソフィアを囲んでシングルストローク、ダブルストローク及びフィンガーコントロール等のベーシックな部分へのクリニックへと進んでいった。ここでは、フィンガーの使い方に加えて、スナップの重要性と練習への応用のしかたをひろうしてくれた。中でもブラシを使ってスティックの場合との大きなちがいであるリストの大切さを実践して見せてくれた。

時間にして約3時間半、今回は、かなり高度な部分が多かっただけに、クリニックに参加した方の中には難しく思った人も多いと思う。特に今回のサル・ソフィア氏はインストラクターとしてアメリカ各地で活躍しているドラマー。彼自身もしっかりしたプログラムを持っているが、時間もなくこのクリニックはかなりベーシックな部分は省略されていたと思う。もし機会があれば、今回は彼本来のプログラムしたドラムセミナーをじっくり体験したいところ。チャンスがあればぜひやってみよう。



「スイング・スイング・スイング」を1コーラスほどドラムだけで演奏し、はてはニューオリンズジャズのツービート奏法なども披露してくれた。又その一方で、東原力哉氏がよく練習しているリズムパターンをすすめていた。ベテランドラマーの同氏がジャンルを問わず今なおいろんなドラマーから何かを吸収しようとする姿勢には思わず頭が下がるほどである。(余談ではあるが、来店時にジミーさんとのお話の中で今一番よく出るドラマーは、デイヴ・ウェックルである。)最後は、ドラムソロでしめくり。ソロを聞いていてもわかるのが色々なフレーズが次々と出てくるのである。途中業界の裏話を交えながら、基本奏法の大切さを教えられたクリニックであった。

(by T. Ichii)

# Which one is your favorite!



**スリンガーランド マグナム4-Dr.Set**  
 ¥442,500  
 (BD-22"×14", FT-16"×16", TT-12"×8", 13"×9",  
 Wタムホルダー付) (4点一式) ※カラー/ブラック・ブ  
 ロス



**ラディック クラシックDr.Set**  
 #LC-3124 ¥302,400  
 (BD-22"×14", FT-16"×16", TT-12"×8", 13"×9",  
 Wタムホルダー付) (4点一式) ※カラー/シルバーク  
 パーケル



**ゾナー ハイライトDr.Set**  
 #HK-325-RM ¥712,000  
 (BD-22"×17", FT-16"×17", TT-13"×11", 12"×10",  
 10"×9", Wタムホルダー、タムアーム、クランプ付)  
 (5点一式) ※カラー/レッド・メイプル



**グレッチ グランドプリックス・シリーズ  
 Dr.Set #GM-4247-WM ¥571,000**  
 (BD-22"×16", FT-16"×16", TT-13"×10", 12"×10",  
 Wタムホルダー付) (4点一式) ※カラー/ナチュラル・  
 メイプル



**グレッチ ジャズ・シリーズDr.Set**  
 #G-4244-AM ¥572,220  
 (BD-18"×14", FT-14"×14", TT-12"×8", 10"×8",  
 Wタムホルダー付) (4点一式) ※カラー/アンティーク・  
 メイプル

**グレッチ ジャズ・シリーズDr.Set**  
 #G-4244-WW ¥411,800  
 (BD-18"×14", FT-14"×14", TT-12"×8", シングル  
 タムホルダー付) (3点一式) ※カラー/ウォルナット

**グレッチ ジャズ・シリーズDr.Set**  
 #G-4249-WW ¥419,040  
 (BD-20"×14", FT-14"×14", TT-12"×8", 10"×8",  
 Wタムホルダー付) (4点一式) ※カラー/ウォルナット

## クロスマッチング・ハイハット (ハイハットサウンドを追え)



(TOP)	(BOTTOM)
セイビアン H.H/14"レギュラートップ+ 2002/14"ヘビーボトム	バイステ 2002/14"ヘビーボトム
<b>定価¥37,000</b>	
istanbul 14"ミディアムヘビートップ+602/14"ミディアムボトム	バイステ 14"ミディアムボトム
<b>定価¥51,500</b>	
Aジル ニュービート13"トップ	セイビアン +H.H/13"レギュラートップ
<b>定価¥34,000</b>	

## LP. Percussion新製品

### THE-JAM BLOCK

※ウッド・ブロックよりも、ダイナミックかつ、どんなハードなプレイでも  
 大丈夫なドラマーのパーカッション・ブロック、サ・ジャム・ブロック。  
 サウンドもハイとローピッチの2種類、スティール・マウント・ブラック  
 ト付だから、セットもワンタッチ。

#LP-1205(ハイピッチ)¥6,000  
 #LP-1207(ローピッチ)¥6,900

### カバサ・ホルダー

※シンバルスタンドのポストやドラムラックにそのままセッ  
 トできる便利なカバサ・ホルダー。

#LP-325 ¥7,300

**ICE BELLS(ベル・シンバルの王様)**  
 ※ユー・ヒップの伝統のサウンド。少しおしやれなアクセント  
 はいかか……。サイズも2種類。

#LP-402(6½") ¥16,000  
 #LP-403(8") ¥19,000

### Salsa Series Cowbells

※コウベルは、なんといってもニューヨーク生まれの  
 サルサ・バンドメイトコウベルだ。テンパルリ、チャ  
 チャ、ボンゴなどの5種類。

ES-2(チャチャ) ¥6,800 ES-3(バンドボンゴ) ¥7,800  
 ES-5(テンパル) ¥7,400 ES-6(ティンパルアップ) ¥7,400  
 ES-7(ティンパルダウン) ¥7,400

## ■アート・スネアドラム■

個性派のあなたにもっともトレンドなオリジナルスネアドラム  
 が誕生。カラーもデザインも一台限り(Only One For You)。  
 シェルは高級ア材(ビーチウッド)を使用。9プライ9%のヘビー  
 タイプと、6プライ6%のミディアムタイプ。サイズは6½"。

シェル本体価格 ¥35,800(パーツ別途)

Produced byアート・ドラム工房

### <DWベダル>

5000-2S 定価¥40,000  
 DWベダルがまたパワーアップ。いよいよ  
 ダブルスプリングタイプの登場。\*シン  
 プルレスベダルのコンセプトを持ちながら  
 のワージョンアップはさすが。

5000N-2S 定価¥40,000  
 ナイロントラップ・ファンの皆様、お待  
 たせ致しました。ナイロントラップもダ  
 ブルスプリングタイプの登場です。スム  
 ーズな動きを受け継いで、さらにスピー  
 ド、パワー共にグレードアップ。\*地上最強の  
 フットペダル\*の誕生です。

5000 "01" 定価¥30,100  
 5000CXのソリッド・フットボードタイプ。

5000N "01" 定価¥29,900  
 5000Nのソリッド・フットボードタイプ。

### <DWハイハット>

5500T 定価¥40,000

5500 定価¥36,000

5500のターボバージョン。ユニークなのは  
 Zレック使用。足まわりが広くツインペダル  
 を使うにはもってこいのハイハットスタンド。

\*地上最強のハイハットスタンド\* 5500登  
 場。踏み心地、レスポンスの良さ、そして  
 ハイハットの垂切れの良さは天下第一。文  
 句なく一押しハイハットスタンドです。

ロングトップチューブ#359 定価¥5,400  
 ロングトップロッド #360 定価¥2,280  
 80cm~115cmまでワイドな長さを持つロングトップなチューブとロッド。これがあ  
 れば最高のセッティングも楽々安心。

## ■話題の教則本紹介

by サル・ソフィア

「サ・オムニ・オ・ドラム・テクニク」 ¥8,800

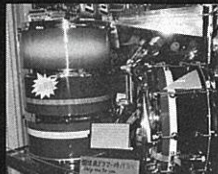
厚さ2cm、表紙は豪華なビニール・レザー仕上げに、金文字入りという、まさに  
 学術書のような風格を持っている。内容は非常に充実しており、モダンドラミン  
 グをじっくり研究してみたいというドラマーには最適の書。

「トラップス」 ¥4,400

ルーティメントを中心にドラムセットへの応用(フォーウェル)を繰り返しわかりやすく  
 展開している。読者の仕方も説明されており、ビギナーにもなじめる書です。

## ■ TOKYO DRUM CITY CARD ■

楽しさ・ふくらみ・魅力がいっぱい。海外でもサービスしている。この度、  
 トキョードラムシティカードはトリエンティファイブ・イン・ソックス社の提携により、  
 便利でお得なクレジットカードを発行しました。コマネ楽器フロア、  
 他店でのショッピングはもちろん、マスターカード、JUCカードとしても  
 使えます。詳しくはTDCまでお問い合わせ下さい。(年会費772円(円  
 込)別途)



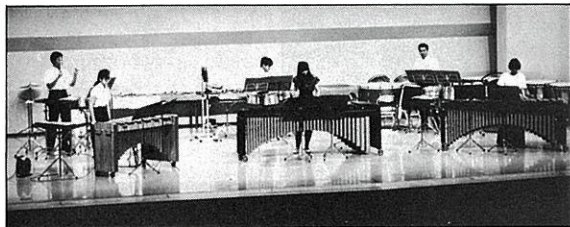
パーカッショングループ〈ファルサ〉結成10周年記念

# パーカッション フェスティバル

7月30日、31日 青森県弘前文化会館にて

パーカッショングループ〈ファルサ〉は、今年で結成10周年を迎えました。短いようで長いようで…やはり、いろいろな事があった10年間でした。この間、年に一度の定期公演をはじめ、青森・盛岡・札幌等での公演や、音楽鑑賞教室等の活動を行ってきました。そして、自分達のからに閉じこもってしまうことのないよう、毎年、中央の第一線で活躍している打楽器奏者の方をゲストに招いたり指導を受けたりしてきました。

今年は、十周年記念ということで、特別企画として、講師にパーカッショングループ'72をお招きしての打楽器クリニック、そして、ファルサとの合同コンサートを開催しました。東北の小さな都市で'72の方々の指導を受けたり、生の演奏を聴くことができ、本当に、意義深いフェスティバルでした。'72の方々は、私の芸大時代（私は委託生でした）の親しい友人でしたが今回？年ぶりにゆっくり再会し、旧交を深めることができた数日間でした。また、今回、青森出身の著名な作曲家である田中利光氏にアンサンブルの曲を委嘱し、初演したことも、私達にとって、素晴らしいことでした。それではフェスティバルの生々しい報告は、メンバーの工藤氏にバトンタッチいたします。（ファルサ代表 肥田野恵理）



## 7月29日 初対面の緊張と感激の中で

午後3時50分。練習を早目に切り上げて、東京から夜行で駆け付けてくれるという'72のワゴン車を、我々は会館駐車場で『あの車かな、いやあの車だろう。』といながら待ちわびたのであります。（前日の八戸遠征で右腕を外に出して運転したら右腕だけ日焼けしたというメンバーの一人S君は、左腕をジリジリと照りつける太陽にあてながらワゴン車を待ったのであります。）

しかしさすがは'72のメンバー。弘前の地図を頼りに我々が会館前でブラブラしている時にはすでにホテルへ到着。列車組の人と合流してしっかり休息をとって夜の練習には万全の体調で現われたのであります。

練習曲は外山雄三の『ラプソディ』。初め'72のメンバーは遠慮してウチワ太鼓やチャンキキなどの御雑子隊に参加したのですが、バランスが悪いので大部分鍵盤楽器の方へ。指揮は石内さん。はじめの拍子木が打ち鳴らされるといきなり永曾さんから「ストップ!!」「拍子木はやたらとタタいてもダメ。左手の形がよけりゃ鳴るんだよ！ホルツ!!」スコーン、スコーンと耳をつん裂くような音。ファルサメンバーは全員目を丸くして感激。（やはりプロだ。出てくる音が違う。）

## 7月30日 永曾さんステップ大流行

さていよいよクリニックの日です。'72のメンバーは昨夜の疲れも見せず颯爽と登場。（会場につめかけたカワイイ女子中学生、女子高校生と、貴重な男子生徒十数名。（打楽器界に男子が少ないのは寂しいものです。）

### 〈課題曲クリニック〉

石内さん、目黒さんの解説を中心に、市内の中学生のモデル演奏をもとに課題曲のクリニックが行なわれました。とかく「打楽器はウルさい。」と言われますが、'72のメンバーが演奏すると迫力はあるのに各楽器のバランスはとれているしウルさすぎない。さすがです。また、普段なにげなくタタいて




いるシンバルも、バチの重さや、たたく場所で全然音の響きが違うこと、サスペンダーシンバルは水平にしたら方がよいこと、タンバリンの鈴が鳴りすぎる時は2〜3個セロテープで止めておけばよいことなど、いろいろな工夫が紹介されました。

### 〈楽器別クリニック〉

「ティンパニ」「小太鼓」「大太鼓」「シンバル」「鍵盤&小物」「指導者コース」に分かれてクリニックを行ないました。特に大鼓類のチューニングは生徒にとって一番の悩み事であり、特別にロビーで実施した植竹さん、前田さんの「楽器修理・チューニングコーナー」は大繁盛でした。

### 〈全員参加のアンサンブル〉

最後に全員で大会議室に集合し、『トッカータ・ウィズアウト・インストルメンツ』を合奏しました。文字通り、手拍子・足拍子・口笛(?)を使っての打楽器アンサンブルです。

中でも大好評だったのが、の足拍子のリズムを永曾さんはRL、LR足の順に、腕を大きくスケート選手のように振って華麗なステップで披露して下さいました。それがまたとても自然で、しかもカッコよかったので、またまた我々に感動を与えたものでした。

## 7月31日 これぞホンモノのアンサンブル

今回のパーカッションフェスティバルのしめくりは、我々ファルサと'72のジョイントコンサート。やはり圧巻は、'72の「レゴン」と「ケチャ」でした。本当に極彩色の音のきらめきが見えました。'72が何度も彼らのステージでこなし、そして練り上げてきた緻密でしかも迫力のあるアンサンブルが我々の目の前で展開された時、このフェスティバルのために準備してきた苦勞も疲れも一気に吹き飛んでしまいました。『プロはうまいからどんな曲もすぐ演奏してしまう。』は、我々の大きな誤解であり、『プロだからこそ、一つの曲を何度も練り上げ聴衆には常に最高の演奏を披露する。』これが今回の大きな収穫の一つでした。

学校への連絡や、会場の調達、そして資金集めまで、一アマチュア団体が主催するには少し冒険だったような気もしますが、パーカッショングループファルサ結成10周年のイベントとして開催した意義はひとまず結実し、今後の飛躍のバネに成りえたことと確信し、パーカッショングループ'72のメンバーの方々と関係諸団体及び御協力いただいた方々に紙面をお借りして改めて感謝申し上げます。

(JPC No.2349 工藤雅哉 記)

〈プログラム〉 スカラムーシュ：D.ミヨー（安倍圭子編） 躍動：遠藤 功

レゴン：西村 朗 夏の日：田中利光

ケチャ：西村 朗 ラプソディ：外山雄三（近藤洋編）



## — 新入荷ご案内 —

### ■S.ハヤシよりハイ・クオリティ&チープなパーカッション新発売。

近頃のアン・コンブーム、パーカッションアンサンブルだって巷じゃ大流行。ところが、他の楽器と違って皆が悩んでしまうのが、楽器の品揃え。管や弦の人達はいくら多くてもひとり2~3種の楽器を持っていれば大体のアンサンブルは消化できますが、パーカッションはそうはいきません。人数とレベルが高くなればなるほど、数は増えるわ、種類は増えるわ、で、何か一種類が無くて代用になるものもなく、泣く泣くあきらめてしまった曲って、ありませんか？

そこで、S.ハヤシは考えました。「少しは皆さんのお役に立ちたい！」で、出たのがこれ。

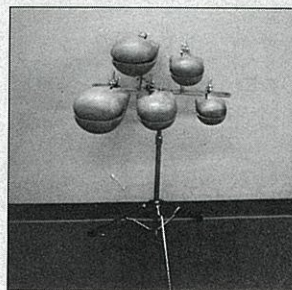


### ①カウベル付ティンバレス ¥35,000

14" & 15"のオーソドックスサイズにカウベルまで付いてこの値段！音？保障します！LP、とまではいかなくとも、充分音を比べられるくらいスチールの胴もしっかりしています。

### ② テンプルブロック 5音セット(スタンド付) ¥30,000

アンサンブルやバンドの中で良く出る割に、あまり普及していないのが5音のテンブルブロック。音程差もしっかりしていて安心の一品。



### ③ ウッドゥン・アゴゴ(マレット付)

¥3,500

箱にも入っていない、色も塗ってない、だから、安い？しっかりした木で作られているので割れる率がとても少なく、とくと音が心配ですが、よく通るハッキリとした音がちゃんと出るので。



## Tokyo Drum City & Japan Percussion Center カード知ってる!?

この度、オリエントファイナンス社との提携によって、18歳以上の人なら誰でも入れるトーキョー ドラム シティカード及びジャパン パーカッション センターカードが登場しました(前号でもお知らせ済みですが)。

このカード一枚で国内ではOF(オリエントファイナンス)、DC(ダイヤモンドクレジット)、UC(ユニオンクレジット)、MC(ミリオンクレジット)、KC(国内信販)の5社、海

外ではマスターカードと、何と6役ものクレジットカードとしていつでも簡単にご利用いただけます。

分割払いもこのカードがあれば面倒な手続きは一切必要なく、サインひとつでOK。ボーナス一括払いもできます。

その他、ファイナンスカード(OFカード)の様々な割引、優待の特典もついています。(詳しくは同封のパンフレットをご覧ください)

お申し込み方法は、カード申込書に必要事項を記入してハコを押すだけの簡単作業。返信用封筒に入れてポストへ!

お問い合わせは、トーキョー ドラムシティ又はジャパンパーカッション センターへ。

(Tel. TDC-03-842-6044/JPC-03-845-3041)

\*年会費772円(税込)は別料金です。

## 岡田知之打楽器合奏団 第16回演奏会

パッカッションニストからのメッセージVol. II

1989年10月28日(土)6:30pm

abc会館ホール(都営地下鉄三田線 芝公園)

¥3,500全席自由

鬼遊び歌——新谷祥子

韻 何か見えますか……—橋政愛

イスタシワトル白き女峰(1980年)——三善晃

### 〈趣意〉

1975年(昭和50年)から続けている岡田知之打楽器合奏団のコンサートは今回で16回目を迎えます。このコンサートでは演奏する曲を全て日本人作品に限定していますが今回はそのテーマを一昨年について「パーカッションニストからのメッセージVol. II」とし、打楽器演奏者ゆえに駆使出来る打楽器の奏法、手本をもとに合奏団のメンバーが作曲した曲を演奏します。昔からピアニストが作曲したピアノ曲、バイオリニストが作曲したバイオリン曲などには名曲があります。打楽器のジャンルでも欧米の打楽器奏者はアンサンブル作品を沢山作り、私達は出版された楽譜として入手することが出来ています。日本の打楽器社会の演奏面の進歩は著しく、最近のニュースでは、ルクセンブルクで行なわれた四重奏のコンテストで日本のグループがドイツについて2位に入賞するなど着々と成果を上げています。演奏面で世界的に認められているのに比べると、作品の面ではその成果があまり上がっていないと感じられます。

日本の打楽器奏者のアンサンブル作品がこれからも多く誕生することを願って、この「メッセージシリーズ」を数年おきに企画し、作品誕生のさきがけとしてすこしでも役に立てればと考えています。

岡田知之打楽器合奏団

# 安倍圭子New CD 11月1日発売

安倍圭子と世界の打楽器奏者たち  
マリンバ スピリチュアル  
日本コロムビア CO-4219 ¥3,008(税抜価格¥2,920)



国内はいままでもなく、海外でも大人気を誇る安倍圭子の、世界各国のトップレベル打楽器合奏団との共演によるCD、11月1日発売。(平成元年度文化庁芸術祭参加)

- ① 輪彩 作曲/三善 晃  
Solo Mrb...安倍圭子  
Perc...クロマータ
- ② マートラ 作曲/西村 朗  
Solo Mrb...安倍圭子  
Perc...シュツツガルト  
打楽器合奏団

- ③ 森の会話 作曲/安倍圭子  
Solo Mrb...安倍圭子  
Perc...ミシガンパーカッション  
アンサンブル
- ④ マリンバ スピリチュアル  
作曲/三木 稔  
Solo Mrb...安倍圭子  
Perc...サークル パーカッション
- ⑤ コンチェルトンテ  
作曲/石井真木  
Solo Mrb...安倍圭子  
Perc...ストラスブル打楽器合奏団

## ◀ JPC だより ▶

### ●新谷祥子&クリストファー・ハーディ デビュー・デュオ・リサイタル (3/26音友ホール)

第一回日本管打楽器コンクールで第2位を受賞し、岡田知之打楽器合奏団のメンバーとして活躍していた新谷さんがアメリカのミシガン大学へ留学したのは2年前のこと。マイケル・ユダウ氏に師事し、昨年はミシガン・パーカッション・アンサンブルのメンバーとして日本に来日(?)、今年4月、同大学院の修士課程を修了して帰国。何か始まるかとワクワクしていたら、何とミシガン大学で共にユダウ氏に師事していたクリストファー・ハーディ氏とデュオを結成し、この度のデビューリサイタルと相成ったわけである。

こじんまりとした音楽の友ホールは超満員。新谷さん自作を2曲、ハーディ氏自作を1曲含めた6曲で構成され、ホールに合わせてかこじんまりとまとめていた。

2年前とはガラリと変わって表現力がさらに豊かになり、グリップなどを変えたせいもあるのか、表情にも演奏にも余裕が感じられた。海外に飛び出してひとまわり大きくなった新谷さんの今後の活躍を期待したい。

### ●西ドイツからカリヨン入荷

カリヨンといえば、ベルリオーズの幻想交響曲の最終楽章に登場するC音&G音が頭に思い浮かびますね。ほとんどのバンドやオーケストラではチャイムで代用しているようです。JPCでも

久しぶりにカリヨンが入荷しました。これはドイツの職人さんが、わざわざ作ったもので、オーダーメイド。オーダーする時にピッチの指定ができます。もちろん、他の音も作ってくれます。興味のある方はJPCへお問い合わせください。



●1989年分会費振込用紙を同封いたしましたので、未納の方はお早目にお振込みください。また、行き違いご入金の場合はご容赦ください。

### ●コマキ楽器休業のお知らせ

10月22日～24日 社員旅行のため休業いたします。

12月30日～1990年1月2日 年末年始につき休業いたします。

## 表紙

サル・ソフィア

1989年10月15日発行  
発行所 J.P.C.事務局  
〒113 東京都台東区西浅草1-7-1  
郵便振替口座 東京91533115  
電話 03-84513041(代)  
加入者 榎コマキ楽器

私は嬉しい！何故なら、今年の夏は思いっきり暑かったからである。去年は貴重な1日を鳥肌立って雨空の下で浜辺にうずくまっていたが、今年はビーチカン照りの中、2日も泳いでしまった。波乗りマットも乗ったし、ビーチパラソルは必要だったし、焼そばもトウモロコシも食べてやった。オイルを塗ったくっついておイモのようにゴロゴロしてやった。ザマミロ！仇を討った気になった人間は私一人じゃありません。十日の暑さに苦しんだりして。始めが良いが一ヶ月も続くでダレクならないのか？何故一年のうち八分の一程度の暑さに耐えられないのか？そこで私は考えてみた。そして結論に達した。それはつまり、9月になったら夏じゃない、という観念がイケナイのだ。良い例が遊園地のブルー。8月31日で終りなんて誰が決めたの？我々社会人は9月になつたら遊ぶのダ。なのに、ブルーはおしまい、巷には秋物やら遊ぶのダ。始め、「ああ秋なのか...」と思った瞬間に疲れがジワジワと出てくるのです。こんな異常気象の世の中なんだからいつまでも暑くたつたておかしくない。ブルー屋さんは一年中開けておくくらいのお構えがなきゃいけない。寒くなつたら閉めれば良いのだ。そうすれば「9月24日はものすくすく暑かったので午後からブルーに行きました。とっても気持ち良かった後からブルーに皆暑さに苦しめられることもなく秋を迎えることのできるんじゃないかな。暑けりゃブルーで泳げる。」が心の支えとなつて夏バテを防ぐのだ、と私は信じている。だって南の国の人達は365日猛暑の中で平然と暮らして泳げるからだと思うじゃない？そしてお魚捕えて浜辺でジュウジュウ焼いて食べ、「あーおいしい。今日も夕日がキレイだな。明日も仕事ガンバンベエ。」となるわけだ。なんたね。そんなわけで、今年の夏は皆さんおおいに「夏」を満喫したかと思えます。お彼岸過ぎたらだいたい涼くなりましよ。ついに秋。来たるべき冬に備えて、キリギリスさんのような目に合わないよう、実りのある秋を過ごしましょうね。

## 編集後記